

夏休みラジオ体操 後半戦終了

7月25日(月)からプラザ1階の時計広場で始まった夏休みラジオ体操前半は、毎日100名を越える参加でケガもなく無事終了。

3月の春休みラジオ体操の時は50名程度だったので約2倍の参加者に驚くばかりでした。

そして8月22日(月)からは後半戦が開始。初日から102名参加と出だしも好調です！

終盤の4日目、そろそろ同じ体操のパターンに飽きてきた頃、自治会の目玉企画「謎のラジオ体操の歌おじさん」が満を持して登場。

マイクを握ると、ピアノ伴奏に合わせ、体操の振り付けをオリジナル？の歌詞で独唱しました。

参加者は「はじめのうごきとおなじさささ」、「みんなでいっしょにやりましょうさhumssa」という歌に多少戸惑いながらも、曲に合わせて体操をします。

いつもとはひと味違うラジオ体操第1を披露した「歌おじさん」。

今回は第2も練習してくることを約束し、ステーション住区の方向に帰って行きました。

そして、迎えた最終日。26日(金)は春休みに引き続き、1級ラジオ体操指導士の西田雅行さんにお越しいただき、体の動かし方のアドバイスや正しい体操の指導をしていただきました。

最後に、10日間毎日参加してくれた子どもたちには、A.CITYひとまちネットワークから毎回の乳酸菌飲料と皆勤賞としての図書カードが、そして自治会からは参加者全員への飴や子どもたちへの消しゴムカプセル、大人への高級ボックスティッシュなど、たくさんプレゼントがありました。

今回から、子ども会も運営に参加していただき、ラジオ体操カードへのスタンプ押印係も高学年の子どもたちが担当しました。

また見守り役として、ANCCの皆さんにも毎日参加していただき、盛況のうちに全日程を終えることができました。ありがとうございました。

これからも、A.CITY自治会では、子どもから大人まで楽しく参加ができる行事を企画していきたいと思えます。

引き続きご支援・ご参加いただきますよう、よろしくお願いいたします。



A. CITYの行事予定

- 9月10日(土) 有価資源ごみ回収日
- 9月18日(日) 球技大会(ペタンク)

- 9月18日(日) 自治会定例役員会
- 9月24日(土) 有価資源ごみ回収日

気になるシリーズ

A・CITYを知ろう②
「街路樹のトリビアあれこれ」

A・CITYは、自然あふれる緑豊かなマンション群と誰もが感じていると思いますが、それもそのはず、敷地面積約67,000㎡のうち約20,000㎡が緑地帯という、なんとも贅沢な植栽設計の街なのです。

分譲当初は「公園都市」と銘打っていたこともあり、当時のパンフレットには、樹木や植栽のこだわりが多く記載されていました。




中でもA・CITYが力をいれたのが街路樹です。フレスタ駐車場入り口からアーバンまで続く歩道は、パリのマロニエ通りやバルセロナのランブラス通りをイメージした並木道を造ろうと、電柱を地下埋設し、1本の歩道の両側に樹木を2列植栽し、車道を挟んで計4列の街路樹を配置しました。

この4列の街路樹歩道は、日本ではめったに採用されておらず、有名なところでは明治神宮外苑のイチヨウ並木がこのパターンで作られた歩道になります。A・CITYではイチヨウではなくプラタナスとフウを採用し、ヨーロッパの並木道を再現する試みが行われました。

しかも、そのプラタナスは、A・CITYのためだけに、茨城県の生産地で500本育成した樹木を使用したそうです。この街でフウとプラタナスを多く見かける理由がわかりますね。



↑紅葉の美しいアメリカフウと落葉したマサシノケヤキ

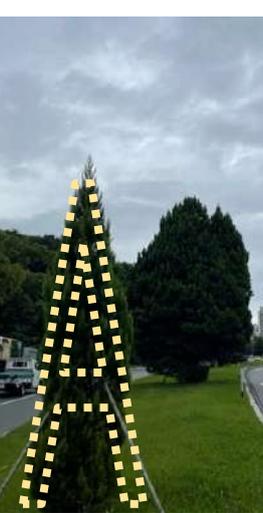


↑アーバン前の4列街路樹(①~④)



←分譲当時の植栽(上)と現在(下)
(ヒルズステージ周辺)

またA・CITYには、中国地方ではあまり見かけない樹木もたくさんあります。例えばマサシノケヤキという関東地方のケヤキ。細長いホウキをさかさまにしたような形で、一般のケヤキのように広がりません。真っ赤に色づくナンキンハゼやモクゲンジという、寺院によく植えられる木も、この街にはかなりあります。モクゲンジの種子は黒くて硬く、日本では古来より数珠の材料になっていました。



最後に、この広島市道の分離帯に植えられているゴールドクレストですが、A・CITYの「A」という形に似ていることから、この木が採用されたそうですよ。市の街路樹にも影響を与えたわけですがA・CITYのトリビアはまだ続きます。



↑モクゲンジの木と種
エノキ(上)とハゼの紅葉(下)→



(榎)の木もパレットII番館やイーストのロータリーに大木があります。樹木の選定も、ひと味違っていることがうかがえます。

祝！設立10周年 大塚・伴南ボランティアバンク

地域にお住いの高齢者や障がいのある方、幼児・児童の保護者を対象に、様々な支援や援助を行うことを目的として学区に設置されている奉仕団体の「ボランティアバンク」。大塚・伴南学区では、平成24年6月に設立され、今年10周年を迎えられました。

大塚・伴南ボランティアバンクは、運営委員会やボランティアコーディネーター、ボランティアスタッフで組織構成されており、地域住民の善意と協力により運営されています。

ここ数年はコロナ禍で活動を制限されていましたが、現在は受付を再開されています。

ボランティアの活動内容としては、

- 外出や買い物補助
- 家事等の支援
- 簡単な大工仕事
- 子育て支援や見守り活動 など

があり、その他にも、さまざまにご相談や依頼に対応されています。

ご相談やボランティアの申込は、平日の10時〜12時まで、受付を行っています。お困りことがある方は、ぜひお問い合わせしてみてください。

受付／月曜〜金曜 10時〜12時
電話／082-849-1777
FAX／082-555-8396



賛助会員より

A・CITYひつまちネットワーク

夏休み限定・子ども食堂開店

地域ボランティア団体・A・CITY Yひとまちネットワークでは、夏休み限定で、子ども食堂を開催しました。意外に困る長期休暇中の子どもたちのお昼ごはん。共働きのご家庭のお手伝いになれば、と始めたこの企画も3年目になり、毎回来店してくれる常連の子どもたちも。

また今年は、広島修道大学や広島経済大学、安田女子大学の大学生(※)がボランティアスタッフとして、食堂の企画と運営に協力してくれました。

大学生は限られた予算内で、子ども食堂のメニューを考え、材料の買い出しから、調理補助・配膳まで行います。昨年までは単品のメニューしかなかったこの食堂も、今年は大学生の考案したメニューのお陰で、チキン南蛮や、トマトキーマカレーなどが登場。バリエーションも豊かになった上に、テイクアウトも対応できるようになりました。

子どもたちは、大学生のお兄さんと和気あいあい。「宿題終わった?」「ピーマン食べられる?」と会話を進めながら、昼ご飯を楽しんでいました。

10日間の開催中に、近所さんからたくさん差し入れや野菜をいただき、最終日にはなんとお肉の差し入れも。急遽メニューを変更して、大学生も一緒に焼肉を楽しんだ時間となりました。

安佐南区・地域の魅力と活力推進事業補助金で運営しているこの事業ですが、企業の協賛や近所からの支援も多数いただき、感謝の念に堪えません。今後は、大人や高齢者を対象にした食堂サービスも展開できればと思っています。次回の開催もお楽しみに。(※安田女子大学の皆さんには今回メニューとレシピの協力をいただきました。)



A. CITY文化祭 出演&出店&出展募集のご案内

コロナ禍で開催がままならなかったA. CITY文化祭と秋祭りが、今年は11月6日(日)に「感染症対策版リニューアル企画」で開催することが決定しました。

そこで、A. CITY文化祭のステージ出演と出店&出展者を限定募集します。「日頃の練習の成果を発表したい」「文化祭を盛り上げたい」という方、「興味のある方も歓迎です。ふるって応募ください」。

●応募内容

- ・ステージ出演者
- ・展示
- ・ワークショップや手作り販売
- ・フリーマーケット出店

●応募条件

- ・A. CITYにお住いの方優先
- ・飲食の出店はできません
- ・応募多数の場合は抽選となります

●応募締切

令和4年9月30日(金)

●お問合せ先(担当/西川)

0900・46900・1667

防災士雑談記

VOL.39

防災士が不定期につぶやく防災のあれこれ

防災週間に防災模試のすすめ

日本では毎年9月1日が「防災の日」と定められています。なぜこの日が選ばれたのかというと、9月1日は、関東大震災が発生した日であるとともに、暦の上では二十日に当たるからです。古来わが国では、二十日は暦の上で雑節の一つとして、台風が来襲する厄日とされています。

ちょうどこの時期が稲の開花期にあたり(最近では稲が改良されたことにより開花期が早いものもある)、台風が来襲すると稲作に大きな損害を被ることを警戒する目印にした日とも考えられます。

「防災の日」は、1960年(伊勢湾台風翌年)に、自然災害の多い9月に、防災意識を高める目的で制定されました。

また、1982年からは、9月1日の防災の日を含む1週間を「防災週間」と定め、各関係機関が緊密な協力関係のもとに、防災思想普及のための行事や訓練などを行っています。

ご家庭でも、9月は災害について認識や理解を深め、それらの災害対処する心構えと備えをするための時間を取ってみてはいかがでしょうか。

そこでお勧めなのが、ヤフー株式会社が行っている「ヤフー防災模試」です。この防災模試は、災害時に身を守る知識をすべての人へ届けたいという企業理念のもと、以前は期間を限定して「全国統一防災模試」という名称で実施されていました。

スマホから簡単に自分の防災知識が診断でき、毎年情報がアップデートされるので、最新の防災知識も得られます。

問題は簡単なものから、専門知識が必要なものまでさまざまです。

問題は25問(10問の簡易版もあります)もあり、回答するスピードも採点の基準に反映される徹底ぶり。非常に時にどれだけ素早く判断が下せるかという点も、知識と行動が連動しなければならぬ防災においては重要なファクターです。

インターネット会社が運営しているだけあり、とても見やすい試験画面と、詳細な解説がついています。親子で、会社で、近所さんとも、ぜひ挑戦してみてください。ちなみに私は10問の簡易版で7点でした。精進します。

(ステージ住区/防災士/竹原哲)